

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1190800126
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	越谷西ケアセンターそよ風
所在地	〒343-0804 埼玉県越谷市南荻島565-1 (電話) 048-970-0170

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月8日

【情報提供票より】(平成20年10月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算	10.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	3階建ての3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000円 )	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,500円				

### (4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	0 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	66 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおばクリニック
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは開所7か月のグループホームであるが、センター長・管理者を中心として、職員の笑顔の中で安心して生活できるように真摯に取り組んでいる。職員のチームワークも良好である。1階にあるデイサービスとの交流も行われ、諸行事への参加や入浴設備(ミネラル温浴)の利用も行っている。食事はグループホーム全体ではあるが、セレクトメニュー(選択食)が採用されており、おやつバイキングもある。また、月1回、美食まつりと称して、普段なかなか食することが出来ないご馳走が用意され、今年は「お鮨の旅めぐり」となっている。新しいグループホームであるが、職員のチームワークの良さと意欲、デイサービスとの連携により、さらに利用者への支援が豊かになる可能性を多く持っているグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初回の外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 開所7か月であるが、積極的に外部評価に取り組んでいる。外部評価を通して、改善点や良いところをさらに伸ばしていきたいという姿勢があり、また評価の結果を踏まえて業務改善に取り組んでいきたいという明確な意思がある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2月に1回定期的に開催され、資料提供と会議録は適正に処理されている。会議には利用者と家族の参加も呼びかけ、利用者中心の施設運営に努めている。自治会、市の関係職員の参加は得られてない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、家族にはたより「そよ風通信」を送付している。個別の状況については、家族の訪問時や電話での報告となっているため、個別の報告が今後の検討課題となる。運営推進会議には家族も参加しており、苦情などについては会議に報告される仕組みとなっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開所7か月であることと周辺の環境的要因もあり、取り組みは今後の課題となっている。職員は地域との交流の重要性について認識している。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営母体法人がグループホームを多数経営していることから、法人全体の基本理念、基本方針、運営方針などの基本的事項は整備されている。これらを尊重しながら運営方針「明るい笑顔と楽しい生活の支援」を立てて取り組んでいる。理念、方針などは事務所に掲示している。		利用者が地域の中でその人らしく生活していく大切さについては十分理解されているため、法人の理念に基づき地域密着型の役割を盛り込んだ事業所独自の理念をつくりあげることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者がリーダーシップを発揮して、理念の具体化に取り組み、職員全体に浸透している。また、事務所などに理念が掲示されている。職員一人ひとりに会社共通の「介護基本知識手帳」が配布され、その活用を通して適切な支援の確保に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所してから7か月のグループホームであるが、1階のデイサービスとの協働による納涼祭、運動会に地域の人の参加を呼びかけたが、天候不順で中止になるなど、今後の取り組みに期待したい。		グループホームの周囲は住宅などが少ないが、行事への参加呼びかけや自治会加入などにより、地域との馴染みの関係を築いていくための方法について検討が期待される。なお、保育園が近くにあることから、身近な地域の社会資源の活用も併せて検討を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価であるが真摯に取り組み、グループリーダーとも話し合い自己評価を行った。開所7ヶ月で取り組んだことには大きな意義がある。外部評価を日常業務の振り返りと運営を総合的に捉える良い機会になると受け止め、今後、全職員が自己評価に取り組めようにしたいと考えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族にも運営推進会議への出席を呼びかけ参加を得ながら、2か月おきに開催している。会議のメンバーは、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者であり、市役所担当課の参加は得られてない。資料提供と会議録は適正に処理され、利用者中心の施設運営への取り組みに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課からは必要に応じて助言などを得ているが、その機会は少なく、市との連携は十分取れていない。		市も業務多忙と見込まれることから、グループホームの運営状況や活動状況などの情報を積極的に提供し、例えば「そよ風通信」などを送付することによって、日々の活動の理解が促進されるように努めることも一つの方法である、それらを含めて検討が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用者の様子が理解できるカラー印刷の便りを送付しており、必要に応じて電話等で報告をしている。さらに月に30件ほどの家族訪問(面会)があることから、その機会を通じて利用者の状況が報告される。		担当職員による入居の様子などを記載した報告(ワンポイント報告)を便りに同封するなど、定期的に利用者の状況を家族に伝える個別の報告について工夫した取り組みの検討が期待される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族や利用者の参加を呼びかけている。運営推進会議は2か月おきに開催していることから、家族の意見も反映されやすい。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在までには大きな人事異動がない。管理者は異動があった場合は、利用者に極力影響を与えないように細心の注意を払っていきたいと考えている。人事異動の希望については、センター長が様々な機会をとりえて職員と話をし把握するように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長にはエリアのホーム長会議などを通じて研修の機会があるが、研修は自己研鑽が中心となっている。外部研修は公務として処理され、ホームヘルパー2級の資格取得助成制度がある。なお、研修参加の時はフィードバックレポートや定例会議で報告するなど研修の成果の共有を図っている。今後も研修の機会を増やしていく意向を持っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社を同じくする地域ブロックのグループホームとは月1回の交流の場が設けられている。しかし、市内の他のグループホームとの交流は殆どない。		地域密着型の事業所として、地域の事業所間の交流の必要性は増大してくると見込まれる。グループホーム協議会、同ブロック協議会などへの参加を通じて、必要に応じて連絡が取り合える関係づくりについて話し合われることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>1階のショートステイの利用を経て入居する人が多く、円滑にグループホームへ移行している。また、利用する前にはホームを見学してもらい、利用者も家族も納得してサービスが受けられるように配慮している。受け入れも職員の間で話し合い、利用者の理解を深め、さらに居室担当者を配置し、安心して生活ができるように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームは生活支援の場であり、利用者との関係を大切にしている。夕食づくり、洗濯物の整理や掃除などを一緒にする中で、利用者から教わることも多い。本人の社会生活歴などの情報も家族から収集している。職員は利用者の人生経験からいただくものが多く、自らの人生を豊かにしてくれると受け止めている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に社会生活歴などを家族から聞き取ったり、日々の生活の中の利用者との会話などから一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。行事への参加も一人ひとりの参加の意思を確認しながら行っている。また、書道など趣味を活かした取り組みも行われている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の健康状態、日々の過ごし方、社会生活歴などの情報を収集している。さらに、利用者の全体像の理解を踏まえたアセスメントを行い、利用者の希望と入居時や面会時などに家族から聞き取った希望を反映するように努めている。介護計画についてはサービス担当者会議で話し合い作成しており、ケアカンファレンスも行われている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6か月ごとに見直しを行っている。状態に変化が生じた時は、フロアスタッフからの申し出により現状に即した介護計画の変更に努めている。また、利用者の情報を一冊のファイルに編綴し、情報の共有化を図っている。介護計画を踏まえて、フロアでさらに食事・調理など8項目にわたる個別の介護援助計画表を作成し、現状に即した具体的な支援に活かしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの職員は出来る限り利用者や家族の多様な希望に沿った支援をしたいと考えている。現在は、突発の病気の通院同行、病院との連携、買い物などを支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医療機関に通院しているが、家族の同行を原則としている。しかし、突発な病気については職員が通院同行している。グループホームの協力医療機関には必要に応じて連絡が取れるようになっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで対応できないことについては家族に話している。入院時には早い段階で家族や医師と話し合いを持つようにしたいと考えている。		今後、重度化に至った場合の共通認識を持つために、継続した話し合いが望まれる。ホームは人生後半の生活の場であり、利用者が人生をどのように全うしたいのか、利用者のニーズがどのようなところにあるのか、現状での限界等についても家族や関係者と方針を共有化することが期待される。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事中の利用者の食べこぼしや箸を落とした時でも、他の利用者に気づかれないように配慮したさりげない支援がされている。言葉かけにも注意を払うとともに、居室への入室時も声かけやノックするなどルールを遵守した対応が行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体では緩やかな一日のスケジュールがあるが、一人ひとりの生活のペースを大切に支援を行っている。諸行事への参加においても本人の意思を尊重している。食事の時間も体調によって時間をずらすこともある。入浴時間もあらかじめ定められた範囲内で自由に入浴が可能である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に夕食をつくったり、一緒に声かけをしながら準備に臨んでいる。プレートを使用しないで、食器類が面前に一つひとつ揃えられる。グループホーム全体で、2種類の献立から選ぶ選択食が採用されており、健康状態によってはおかゆなども提供される。月1回美食まつりを開催し、寿司などが提供され、おやつバイキングもある。		職員と一緒に食事をしているが、離席して食器などの洗浄をはじめたり、利用者も食べ終わると離席する場面がある。利用者が落ち着いて食事をするには、どのような場面設定がいいのかについて、現状分析を含めて今後の検討が期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員体制もあり入浴は日中の時間帯になるが、希望があれば毎日入浴ができる。また、入浴時間や温度など健康状態に配慮した対応に努めている。入浴を嫌がる利用者には声かけなどを行い、足浴や清拭をしている。「温泉の素」(入浴剤)を入れたり、月1回程度、1階のデイサービスのミネラル温浴なども利用できる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	夕食づくり、洗濯物の整理(たたみ)、掃除などを一緒に取り組んだり、利用者の趣味(書道など)を活かした支援が行われている。昼食時には利用者同士の助け合いの場面もみられる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲の環境的要因も影響していると考えられるが、外出の機会が少ない。秋に茨城県の自然博物館まで日帰りのバス旅行をしてきた。		デイサービスと同一建物にあることから、駐車場などはかなり広い。例えば日中、1階に下りてベンチに座り、外の空気を吸うなどできるところからの取り組みが期待される。なお、利用者の身体的障害は比較的良好であることから、日常的な場所への外出を検討されるのも方法と考えられる。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階がデイサービスであり、鍵は施錠されてないが、2階のグループホームの居室部分からは簡易な施錠がされている。		2階の施錠が利用者にとって抑圧感をもたらしていないか、外出意向のシグナルを見落としていないか、利用者本位の原点にたつて、どういう取り組み方法があるかについて、話し合いをもつことが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開所7か月であり、避難訓練などはこれから取り組みとなっている。		火災、地震対策を含め、市の防災計画との整合性などを踏まえて、今後の検討が望まれる。また、災害時には近隣の協力が欠かせないことから、自治会などの協力が得られるように、地域との交流を深める方法と関係にも配慮した検討が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>適正な栄養とカロリーの摂取に努めている。状態の変化がある場合は、業務日誌やミーティングなどで共有するようにしている。インアウトチェック表による飲水量、排泄回数の把握、摂食量の把握も適切に行われている。食事は1,500カロリー前後となっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは整理整頓され、畳の居場所も用意されている。利用者の手作りの作品などを飾り、居心地のよい空間をつくりだしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には趣味の作品や家族の写真などが飾られ、その人らしさを大切にした生活空間がそれぞれつくられている。</p>		